

瀕死の柔道部を救え！

～ 課題の共通認識こそ急務 ～

大阪高体連道専門部
部長 藤井 光正

私が府立高校の教員として採用されたのは1984（昭和59）年の春です。

その頃、インターハイ府予選（団体戦）は、まず東西南北4つの地区で予選があり、中央大会への出場権をかけて各地区40校前後の学校が凌ぎを削っていました。勿論、当時と今とでは生徒数が全然違いますので、あの頃の活況を望むべくもないのですが、当時と比べ、全校生徒に占める柔道部員数の割合が大きく減少していることに寂しさと危機感を感じずにはられません。

全国の柔道人口は2019年度までの10年間で約43,000人（23%）減少しました。

中でも、高校生柔道人口（柔道部員数）は約10,000人（33%）減と顕著です。

高校で柔道部員が減ったことが柔道人口減少に拍車をかけていることは、柔道の指導に携わる我々にとって大問題であると同時に、これから新入生を迎える現役の柔道部員も知っておくべき数字だと思います。

気になるのは、大阪府内の高校の柔道部員数の現状です。

学校基本調査（文部科学省）と全日本柔道連盟登録者数（全日本柔道連盟）から、各都道府県の高校生（全日制＋定時制）全体に占める柔道部員の割合を算出してみました。比較したのは高校生の人数が10万人を超える9都道府県です。下表をご覧ください。

結果は一目瞭然。残念ながら、柔道部員の割合の低さは特に大阪府において憂慮すべき状況と言えます。隣県兵庫の半分というのは衝撃的な結果です。現状を直視して対策を講じることが喫緊の課題です。

昨年度はコロナ禍でほとんどの大会を中止せざるを得ず、柔道部員数増加に貢献することをねらいとした本専門部主催の催しも開催できませんでした。

今年度は、役員を中心に各校顧問等すべての関係者が共通認識を持った上で様々なアイデアを出し合い、実効性の高い対策を講じることが不可欠です。また、そのことが、私の本年度の最も大きな仕事であると感じています。

部員のみなさんも、日頃感じている柔道の魅力を新入生に伝え、仲間を増やしてください。柔道は競技の特性上、接触が避けられないので、他の種目より多くの制約を受けてきました。そんな中でも主体的に考え工夫して稽古を継続してきたみなさんの知恵を活かすのは今です。大阪の高校柔道部は瀕死状態です。10年先の大阪の高校柔道界が活気に溢れたものになるようみんなで力を合わせましょう。

順位	都道府県名	割合
1位	兵庫県	0.90%
2位	北海道	0.71%
3位	福岡県	0.71%
4位	愛知県	0.63%
5位	千葉県	0.59%
6位	東京都	0.58%
7位	埼玉県	0.46%
8位	大阪府	0.45%
9位	神奈川県	0.38%

都道府県別高校生柔道人口割合